

平成28年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立鹿屋農業高等学校

1 目的

農業後継者確保のため啓発活動及び視察研修を主に行う。1年次は、県立農業大学校、県農業開発総合センター等に年2回の視察研修を行う。2年次は、農家委託実習を7泊8日で実施し、体験的に農業の経営について学習をする。3年次は、直接就農及び農業大学校進学者等で先進地農家を中心とした視察研修を実施する。農業に対して興味・関心を深め適格者の確保を目指すものである。

2 実施状況

(1) 1年次視察研修の実施（活動内容、効果）

本県における農業の実態や農政の現状を学習し、将来新規就農者及び地域産業の担い手を育成するために、視察研修を実施した。責善寮生（自営学科1年生）を対象に、鹿児島県立農業大学校や地域農家、JA関連施設を見学した。研修を通して農業大学校進学希望者の目標がより具体化し、また地域農業の特徴を理解し農業への興味関心を高めることが出来た。また今年度は、農業の6次産業化を視野に、大隅加工技術研究センター視察・連携も重点化できた。



鹿児島県立農業大学校での説明

(2) 2年次農家委託実習の実施（活動内容、効果）

総合実習の一環で、専門教科の実験・実習などの学習成果を基礎にして、地域の畜産・園芸農家で農作業や農家生活を体験することにより、農業に関する基礎や専門的な技術及び経営観について学習を行なった。この地域連携事業（後継者育成事業）を通して、就農意欲の向上が認められ、農業大学校進学など就農への具体的進路選択の一助となった。今年度は、新規受入農家も確保でき、特に果樹部門の受入農家を新規に追加できた。



農家委託実習での管理作業

(3) 3年次就農指向者研修・営農の門出を励ます会の実施（活動内容、効果）

農業大学校進学者や直接就農者等の就農志向者を対象に県内の優良農家及び関連施設等の視察研修を実施し、間近に迫った将来の就農に向けての指針とする。就農目的が明確な生徒のため、経営内容や機械・設備、販売・流通に関するより具体的知見を得ることが出来、今後の就農目標を更に具体化することが出来たようだ。営農の門出を励ます会を実施し、就農に向けての意識高揚を図ることができた。今年度の就農指向者は、自営者養成学科の3学科合計で37名となり、平成26年度の23名、平成27年度の26名に対して増加した。



JA食肉鹿児島南薩工場視察

3 今後の課題、取組

平成29年度入学選抜試験出願状況は、畜産動物学科の出願倍率は前年度0.91が1.09に上昇したが、耕種関係学科の出願倍率（農業科0.35・生物工学科0.28）の改善と就農率の向上が今後の最重要課題である。また、非農家の生徒も増加しているので、今後は就農キャリア教育・就農促進対策事業に農業法人説明および農業法人視察を新規で組み込みたい。